

3

Once upon a time, there was a princess living in a noble family's palatial mansion in Kyoto.

She was well-known as a very weird princess. This was because she loved "insects".

The princess always captured various insects outside her room and kept them in cages.

All the court ladies of the mansion didn't like insects, so they were scared every time they entered her room.



5

One day, her parents asked her with a troubled face.

“You are into creepy creatures like green caterpillars rather than beautiful insects like butterflies. Why on earth?”

The father asked. Then the princess answered.

“Father, people like only things that look beautiful, but I think the beauty within itself is more important than just the appearance.”

The princess brought one of her insect cages from her room and put it in front of her parents.



むかし、きょうのみやこの、
とある きぞくの おやしきに、
ひとりの ひめぎみが いました。

この ひめぎみは、とても かわりものの むすめとして、
ゆうめいでした。というのも、この ひめぎみは
『むし』が だいすきだったのです。

ひめぎみは じぶんの へやで、
そとで みつけてきた さまざまな むしを、
かごに 入れて かっていました。

おやしきで はたらく じょかんたちは、
みんな むしが にがてで、
ひめぎみの へやに はいる ときは、
いつも むしに おびえていました。



あるひの こと、ひめぎみの りょうしんが、
とても こまった かおで いいました。

「おまえは、ちょうちょ のように きれいなものより、
あおむし のように、きみのわるいもの ばかりに
むちゅうになっている。いったい なぜだ」

ちちおやの ことばに、ひめぎみは こう こたえました。

「おとうさま、せけんでは、
うわべの うつくしいもの だけが
このまれる けれども、
わたくしは うわべよりも、
そのものの なかみの うつくしさの ほうが、
たいせつだと おもっております」

ひめぎみは じぶんの へやから、
むしかごを ひとつ もってきて、
りょうしんの まえに さしだしました。

